

札幌市立 きくすいもとまち幼稚園

〒003-0826

白石区菊水元町6条1丁目5-1

【地域の幼保小中との連携の推進】

本園のある菊水・米里地区では、札幌市立米里中学校に入学する札幌市立米里小学校、札幌市立菊水小学校と5年前に「菊水・米里地区教育機関連絡会」を立ち上げ、近隣の保育園、私立幼稚園と共に地域の子どものための教育の向上を目指して研究交流を行っている。

保育園との交流

年度当初に計画を立て、互いの園の環境を生かした遊びを楽しんだり、近隣の公園で遊んだりしている。地域の友達との関わりを広げ、遊びのヒントを互いに見つけるなどの機会となっている。

中学校との交流

夏休み・冬休みを利用して未就学児の園開放時にボランティアとして招き、交流している。幼児にとっては優しく接してもらえる心地よさを感じる機会であり、中学生にとっても地域で認められる場となっており、継続して取り組んでいる。

小学校との交流

小学校へ行き、発表会の見学や給食体験などをすることで小学校の雰囲気を感じ取り、入学への期待を高めている。今年度は園児の遊びの中から必要感がうまれたことで図書室を利用させてもらうなど新たな取組ができた。

公開保育・公開授業

（職員同士の交流）

互いの保育や授業を見合い、幼児期児童期の学び方の違いや特徴などについて話し合っている。互いの理解が深まり、日々の保育や授業に生かされている。



【図書館での様子】



【公開保育の様子】

【成果】

- ・職員間では、互いの教育内容を公開し、見合う場を作ることでいろいろな気づきが生まれた。今年度は小学校低学年国語の授業を通して、言葉のおもしろさや表現力をどのように育てるかという視点など、今までより一步深い話し合いができた。また、交流を継続することで交流の内容が工夫され、深まってきている。また、幼児には交流を通して体験したことを生活や遊びに取り入れようとする姿が見られるようになった。
- ・必要感をもって発足した会であり、身近な課題がみえやすく話題も焦点化しやすい。地域の子どものための乳児期から青年期までを見通した教育活動を考える場となっている。

【考察】

- ・地域の様々な校種と連携することで、教師は幼児期だけでなく、長期的な発達の見通しをもち、幼児に関わることができるようになっていくと考える。また、幼児期の遊びを通じた学びの芽生えと小学校以降の教科を通じた自覚的な学びとのつながりを考え、保育を振り返ったり、多角的な見方を意識できるようになっている。

札幌白樺幼稚園

〒003-0023

白石区南郷通18丁目北 5-5

【小学校との連携】

・連携の様子

朝から一日を通して体験や授業を参観し、様々なクラスや学年に入らせていただいた。授業後に、ディスカッションをした学校もある。

・連携に至る経緯

今年度、自園の研修の一環で小学校との連携を行う事となり、校区内の3校に分かれ数名ずつ行かせていただいた。

・連携先との関係

卒園児が多く入学する校区内の小学校。



【小学校でディスカッションしている様子】

【成果】

- ・卒園児がますます成長している姿を近くでゆっくりと見る事ができた。
- ・小学校での授業を参観し、先生方の工夫が多く見られて刺激になった。
- ・「入学までにしておくこと」を、改めて理解することができた。それにより、基本的な生活習慣をしっかりと身に付けること、集団生活に必要なことを見直すことができた。
- ・小学校の先生方と話をすることで、これまでの幼稚園での指導に自信をもつことができた。

【考察】

- ・ルールを守る、そのために必要な我慢もある。集団生活における基本的なことを再確認し、小学校に送り出す準備をしていく。
- ・小学校も幼稚園もお互いが歩み寄り、情報交換をしていくことの大切さを改めて知った。
- ・できるだけ多くの交流をもてるよう、無理なく計画を立てて交流・連携の時間を作っていけるようにする。



【実際に体験している様子】

北都幼稚園

〒003-0024

白石区川下 749-55

【小学校との連携】

幼稚園の夏休みを利用して、職員が小学校の授業を見学。

日頃から卒園児が多数お世話になっている3校に依頼した。

時間帯、見学できる授業などこの学校も快く引き受けてくださりました。

【成果】

- ・なんとなく知っている小学校での様子や聞いたことのある話などを具体的に目にする事によって具現化され、「なるほどそうか」と連携する際に話がスムーズになった。
- ・学校の様子を見た事で、保護者と就学に向けての話がしやすくなった。

【考察】

- ・学校に行ける時期が、幼稚園の夏休み中だったので、小学校の学期末と重なってしまった。時期を検討する必要がある。
- ・小学校からも幼稚園の教育を就学前に見に来てもらう機会をもてるとよい。
- ・今回は初めての企画だったので、見学を中心とし、子どもたちの前で話をする機会は設けなかったが、今後経験させてもらうのも良いかもしれない。

【目的】

- ・幼稚園から小学校へ送り出すにあたっての必要な指導を考える。
- ・幼稚園での指導が身に付き、その後活かされているか。
- ・教師がいない時間（中休み等）の過ごし方を知る。
- ・特別支援学級と通常学級との関わりやサポートの仕方について学ぶ。
- ・実際に様子を見る事で共通理解を図れるようにする。



学校の給食も体験



教科書やノートを見せてもらいました！ペンの色を変えたり、板書を一生懸命写している姿に感心しました。

白石興正保育園

〒003-0013

白石区中央3条5丁目2-37

【西白石小学校との連携】

- ・小学校より、当園の卒園児は、優しさや思いやりがあり、就学後もその気持ちが持続していくように、園児との交流を図っていききたいとの依頼があった。

また、小学校の研究の一貫として、実践発表をしたいとの話もあり、平成12年より始まる。交流するにあたり当園より、1年で終わらせるのではなく、息の長い事業にして欲しいとの要望も伝え、そのためにもお互いに毎年度無理のない程度に、計画を立てている。

保育園としては、年長児が対象。小学校は学校生活に慣れてきた2年生が対象。また、保育園側は卒園時の保育士が担当になり、成長している姿を見る機会もつくるようにしていた。



<顔合わせ>
グループごとに自己紹介

- ・スタート時は、小学校見学とゲーム。2年生の保育園時代のスライドを鑑賞。お店屋さんごっこ（研修発表）の3回が行われた。

その後、学校と話し合い、現在、小学校主体の顔合わせ、相撲大会応援、学習発表会児童公開見学、お店屋さんごっこ、小学校見学、保育園主体の運動会ごっこ、ハロウィン（焼き芋と交互に行う。）、雪中運動会の8回になる。

4月初めに、前年度反省と今年度計画を行い、各回においても電話・ファクスを活用し、連絡を密に行っている。



<ハロウィン>
協力してゲームをしました。

【成果】

- ・小学校に対しての不安感を取り除かれ、子どもは期待感が深まる。
- ・保育園では年長として過ごしている分、年上との交流をすることで活動や文字等の刺激がある
- ・学校の雰囲気が感じ取れたり、子どもたちに対して、教諭がどのように関わり、言葉がけをしているかなど見ることができる。
- ・情報交換がしやすくなった。

【考察】

- ・年長の行事の一つとして、期待感がもてる。
- ・小学校に行くことで、2年生だけでなく、卒園児と会う機会ができ、成長ぶりを見ることができる。
- ・小学校教諭と保育園職員との意見交換会を設けるが、授業と保育時間の違いにより、継続が難しく、今後再検討し、実行していききたいと思う。

札幌市立東橋小学校

〒003-0808

白石区菊水8条1丁目

【近隣の幼稚園、保育園との連携】

本校では、園児と児童との交流を、学習発表会など行事での参観だけでなく、「総合的な学習の時間」、「生活科」など、教育課程に位置付けて行っています。

○1年生との交流



【児童より保育園児へ首飾りのプレゼント】

生活科「ようちえんのおともだちと遊ぼう」の学習で、近隣の幼稚園・保育園の児童を招待して交流する時間を設定しています。自分たちで計画を立て、「一緒に遊ぶ」「鍵盤ハーモニカを聞かせる」「紙芝居を見せる」「プレゼントを贈る」などの活動を行っています。2学期後半に行うことにより、園児に楽しんでもらうことを通して、自分の成長を振り返るとともに、進級に向けての心構えをもつことにつながっています。



【幼稚園からご招待され、太鼓の演奏を聞いたこともありました】

○5年生との交流



【折り紙で遊ぶ5年児童と園児】

総合的な学習の時間「新1年生と仲良くなろう」の学習で、近隣の幼稚園・保育園の児童を招待して交流する時間を設定しています。自分たちで計画を立て、「一緒に折り紙を折る」「ゲームを行う」などの活動を行っています。3学期に行うことにより、5年生には4月から1年生となる園児との交流を通して、最上級生の自覚をもち、4月からの活動の見通しをもつことにつながっています。また、園の先生からは、「園児が、小学校の様子を具体的に楽しみに思えるようになっています。」と仰っていただきました。



【園児をリードすることも大切な学習】

○行事の参観・参加

その他、運動会や学習発表会には園児を招待して、活動の様子を見ていただいていますし、授業参観の案内をし、学校に入って授業の様子を見ていただいています。また、グラウンドやプールなど学校の施設を利用して園の活動をしていただくことも、進学不安を和らげる一助となっています。



【学習発表会の参観】

【成果】

- お互いの活動を知ることができ、連続性を考慮した教育活動を検討できるようになった。
- 進学前より園児の様子を知ることができ、進級の引継がスムーズになり、分からないことがあった時に聞くことができるようになった。

【考察】

- 取組の成果、課題や幼・保・小の連携の場や活動の工夫について、職員間で交流する場を設定する。

【しろいし幼稚園との連携】

□連携の様子□

- ①運動会のためグラウンド・プールのトイレ貸与
(2014年7月5日)
- ②生活科「しろいしの町大すき」本校2年生児童訪問
(2014年7月3日、9月10日)
- ③1年生学習発表会練習見学のため年長児来校
(2014年11月21日)
- ④しろいし幼稚園教諭による授業参観および懇談会
(2014年12月15日)
- ⑤1年生との交流活動のため年長児来校
(2015年2月4日実施予定)
- ⑥新1年生引継のための保育参観(2015年2月中旬予定)



2年生生活科
「しろいしの町大すき」
幼稚園訪問・見学

□連携に至る経緯および連絡先との関係□

本校が連携を行っている「学校法人新善光寺学園しろいし幼稚園」は、本校校区内にあり、本校より徒歩3分程度の場所に立地している。そのため、例年本校新1年生の3割近くの児童がしろいし幼稚園の卒園児である。

そうしたいくつかの好環境を生かして、児童・園児の交流、教職員の交流、施設利用を通じた交流を行い、児童・保護者にとって幼小の接続がスムーズに行えるように連携を進めている。

また、小学校としては、生活科の学習の中で、身近な人や地域との関わりを学んでいく場面としてカリキュラムの中に交流や訪問を位置付けている。



幼稚園年長児
1年生の学習発表会練習
の見学ため来校



幼稚園教諭による
授業参観後の懇談の様子



幼稚園年長児
1年生との交流活動
(校内案内)のため来校

□取組の成果□

- 交流を通して、年長児は入学への不安を取り除き期待感を膨らませることができているようである。
- 1年生児童にとっては、2年生になり先輩になることへのビジョンをもたせることができ有意義な交流となっている。
- 教職員がお互いの授業や保育の様子を見ることで、園児や保護者にとってスムーズに幼小の接続ができるように配慮すべきことや相手から学ぶべきことが浮き彫りになってきている。
- 園児の様子を実際に見たり、園児の支援に必要な情報を交流したりする中で、入学後の個別の支援体制などについて小学校として準備を行うことができた。

□今後の課題□

お互いに参観することで、子どもの様子や授業・保育の実際を知ることができるという意味では大きな意義があるが、これまでは参観だけで終わってしまっていた。そこで、今年度は、授業参観後、質疑応答や意見交流の場を設定し懇談を行うことで、有意義な時間をもつことができた。今後、連携がさらに効果的なものとなるよう、また園児・保護者が安心して小学校へ入学ができるよう、教職員の交流・懇談の充実を図っていく必要があると考える。

札幌市立本郷小学校

〒003-0022

白石区南郷通 10 丁目南 3-1

【東白石保育園との連携】

< 1 学期 >

□学校地域公開日での児童の様子への参観

< 2 学期 >

□教育実践発表会での児童の様子への参観

□学習発表会（児童観覧日）で、1 年生の発表を園児が観覧

< 3 学期 >

□新 1 年生となる園児の保護者との懇談会

【本郷幼稚園との連携】

< 1 学期 >

□学校地域公開日での児童の様子への参観

□グラウンド・校舎施設の貸出（運動会）

□夏季研修（学校 1 日訪問）への協力

< 2 学期 >

□教育実践発表会での児童の様子への参観

< 3 学期 >

□1 年生と生活科での交流

～研修に参加された先生方より～

- ・初めに子どもたちの素敵な歌声が聴こえ感動しました。
- ・集中して授業を聞いたり、考えを発表したりと成長した姿を見ることができて驚きと感動で一杯でした。
- ・小学校での子どもたちの生き生きとした姿や授業中に積極的な発言をする様子が見られとても勉強になりました。

【その他の機関との連携】

○白石区幼保小連携協議会～・研修 ・交流 ・引継

○幼児教育センター

・白石区幼保小合同研修会（講演会）

『支援を必要とする子どもの育ちをつなぐための保護者や関係機関との連携』

講師 大正大学人間学部臨床心理学科教授 玉井 邦夫 氏

【成果】

- ・教職員の相互理解ができた。
- ・交流活動が充実した。
- ・子どもの入学前後の情報交換ができた。

【考察】

- ・入学を控えた園児と 1 年生を 6 年生になってお世話をする 5 年生との交流の導入

札幌市立南郷小学校

〒003-0024

白石区本郷通4丁目南3-1

《実践事例1：本郷幼稚園との交流（1年生）》

◆日時：平成27年1月28日（水）3・4校時

◆交流相手：本郷幼稚園年長児

本実践では、幼稚園年長児を学校に招待し、小グループで校舎案内をしたり、体育館で集団遊びをしたりしている。1年生にとって、上級生側の立場でお世話をする経験になり、「一日入学」（2月）への意欲をもつきっかけになっている。



【音楽室を案内する】

《実践事例2：白石でっち奉公（5年生）》

◆日時：平成26年10月14日（火）1～6校時

◆訪問先：本郷幼稚園、白石幼稚園、ちあふる・しろいし、東白石保育園、飛翔保育園

本実践は、近隣の店舗や事業所、公共施設で職業体験をする活動である。幼稚園・保育園では、園児と一緒に遊ぶ活動を通して、相手を思いやる心情や態度が育っている。



【園児に読み聞かせをする】

《実践事例3：授業公開（1年生）》

◆日時：平成26年10月28日（火）5校時～放課後

◆参加：本郷幼稚園、幌東幼稚園、ちあふる・しろいし、南郷保育園、東白石保育園

近隣の幼稚園・保育園の先生方に、1年生の授業を参観していただいている。入学後の成長ぶりや授業スタイルを見ていただき、1年生担任との懇談の場を設けている。

《実践事例4：園外研修の受け入れ（全学年）》

◆日時：平成26年7月23日（水）1～5校時

◆参加：本郷幼稚園教諭（5名）

今年度、本郷幼稚園の職員研修を受け入れた。小学校生活全体についての実態把握という研修目的があったため、全学年で学習や生活の様子を見ていただいた。

【成果】

○小学校の見学は、園側にとって、「小学校生活を意識して指導できる」「保護者に小学校のことを説明できる」というメリットがある。小学校側にとっては、小学生との交流経験のある園児が入学することで、入学期をスムーズに指導することにつながる。

【課題】

△近隣の幼稚園・保育園（7園）に、『学校行事・参観日の日程』『1年生の授業公開』をお知らせしているが、教育・保育時間と重なるため、園側は「参加したくても参加できない」という実情がある。同様に、小学校教員が幼稚園・保育園を訪問・見学することも難しい。次年度は、年度初めのうちに連携事業を計画していきたい。

札幌市立本通小学校

〒003-0028

白石区平和通9丁目南1番1号

【愛隣館第二保育園との連携】

・本校と愛隣館第二保育園は、平和通を挟んで近い場所に位置しており、また、本校の開校から3年後に愛隣館第二保育園が開園され、卒園児童の多くが本校へ入学してくる。平成27年度も14名の卒園児が本校に入学予定である。

・本校で飼育しているうさぎに、園児が時々野菜を届けに来てくれる。また、近隣の平和通公園等では、生活科の学習等で活動する低学年児童と遊びに来ている園児が遭遇することもあり、兄弟関係も多いため、子どもたちが互いに声を掛け合う姿も見られる。

・今年度は、学習発表会の前日練習を年長児が参観した。練習なので、劇の途中で指導が入ることもあり、普段の姿を見てもらったが、園児たちは真剣な表情で見つめていた。

・12月の児童集会「ハッピーショップ」では、2年生以上のクラスで、子どもたちが考えた手作りのゲームなどで楽しむ集会に園児を招待し参加してもらおう予定だったが、悪天候による臨時休校のため日程が変更になり、加えてインフルエンザの流行もあり、児童集会での交流は実施できなかった。

【成果】

- ・保育園の先生方と会って話をする機会が増えたことで、子どもの様子や地域の様子についての情報交換ができた。
- ・子どもたちは学習発表会の練習を園児に楽しく見てもらったことで、自分たちの演技に自信をもち、本番に向けての意欲を高めていた。

【考察】

・保育園の子どもたちとの交流をもつことで、小さい子に優しくする気持ちが育ち、自分の成長を感じ取ることができる。また、園児も入学前に小学校に何度か足を運ぶ中で、入学への期待感を高めることができるのではないかと考える。



【うさぎの野菜を届けに 10/30】



【学習発表会の練習を観る園児 11/28】

【札幌白樺幼稚園教諭の小学校訪問】

◎平成26年7月23日（水）

～ 8：30 4名来校・説明
8：45～12：20 1～4校時
12：20～13：00 給食（各教室で）
13：00～13：30 清掃・昼休み
13：35～14：15 5校時
14：30～15：30 交流会

◎1年生の各教室に一日入り、授業参観及び子どもの様子を見てもらった。

◎5時間目終了後（14：30～）**交流会**を行った。



【朝の会での自己紹介の様子】

【交流会での内容と成果】

①4か月間の子どもたちの変容

- ・実際に子どもたちと触れ合うことにより、自主的な行動や役割を意識した当番活動など、変容を見てもらうことができた。
- ・担任の声掛けや学年（学級）目標の設定の仕方など具体的な交流ができた。

②幼稚園と小学校との違い

○声かけや関わり方

- ・やる気を引き出す関わり方（小）や、声のかけ方（幼）といったお互いの良さを交流できた。

○保護者対応のやり方やお互いに望むこと

- ・学習面での個人差の伝え方（小）や、丁寧な対応（幼）といったお互いの良さを交流できた。

③TTについて

- ・実際に授業（算数）を見てもらうことによって、共通理解が図れた。また、少人数指導や習熟度別学習についても理解してもらえた。

④小学校入学に際して、幼稚園が意識しておくこと

- ・給食時間の違いにギャップを感じており、園で練習してみようという認識をもってもらえた。
- ・字が書ける、計算ができるといったことよりは、集団生活をする上でのルール（離席・時間）を守ることの大切さを確認できた。



【国語の学習での机間指導の様子】



【音楽の学習でゲームをする様子】

【考察】

- ・1年生だけではなく2年生にも入って交流したい。
 - ・お互いに行き来して見合う事を大切にする。
 - ・幼保小連携推進協議会での「情報共有化」の重要性。
- ※「何事にも頑張る子」をお互い育てていきましょうという共通認識を確認して終了しました。



【給食指導をしている様子】

【幼稚園・保育園との連携】

① 小学校授業参観交流(教職員)

- ・ 幼保小連携事業として、北郷あゆみ幼稚園・北郷すずらん保育園と本校1・2年生の授業参観交流を10月に行った。

② 保育園との交流(2年生)

- ・ 2学期は、生活科の学習で、校区内の北郷すずらん保育園と北白石保育園へ出向き、集会形式で小学校の様子を発表し伝える交流会を行ったり、子どもたちが保育園児や先生方にインタビューしたことを新聞にまとめたりした。
- ・ 3学期には生活科「冬を楽しもう」の学習で保育園児を招待して、小学校のグラウンドで一緒に雪遊びの交流を行った。

③ 幼稚園との交流(5年生)

- ・ 総合的な学習の時間として、本校校区内にある北郷あゆみ幼稚園を訪問して、園児たちと一緒に遊ぶ活動を行った。その後、今度は園児を小学校へ招待して、模擬授業や読み聞かせ、運動などを体験してもらう活動を行った。



【5年生幼稚園交流のようす】↑



【2年生保育園交流】



【5年生幼稚園交流の様子】



【2年生保育園交流の様子から】

【成果】

- ・ 授業参観交流、2年・5年の交流活動については、今年度初めての取組であった。子どもたちの交流活動を通して、保育園未経験の児童が初めて体験したり、年齢の離れた子どもと関わることで「関わり方」を学んだりすることができた。また、5年生の子どもたちは、この交流活動によって、来年度最高学年になる気構えができた。
- ・ 職員間の交流では、授業参観や交流活動の打合せの際に、本校へ入学する園児についてや兄弟関係のある児童の家庭環境等についての情報交換をすることができ、非常に貴重な機会となった。

【小学校の授業参観より】↓



【5年生幼稚園交流の様子】

【考察】

- ・ 児童の交流活動については、教科のカリキュラムに位置付け、学年間で系統立てて取り組むことで、子どもの自覚や意識が変わってくる。
- ・ 毎年継続して取り組むことで、小学生と幼稚園・保育園児のつながりができ、互いの環境や実態を知ること、いわゆる「小一プロブレム」の解消にもつながると考える。
- ・ 幼保小の連携に際しては、交流等の日程調整がなかなか難しい。それぞれの年間行事等をできるだけ早く把握し、年度当初と一緒に計画を立てることが大切である。

札幌市立北都小学校

〒003-0833

白石区北郷3条11丁目7番1号

【北都幼稚園との連携】

- ・北都幼稚園の先生が小学校に来て、授業参観を行った。1年生の学習を中心に参観を行い、給食を一緒に食べるなど、小学校の生活の様子や指導の実際を見てもらった。その後幼稚園の先生と小学校の先生とで話し合いを行い、指導の連携について協議を行った。
- ・今年度より、情報交換をより密接に行うことを目的に、交流を始めた。
- ・北都幼稚園の園児が本校に入学する。

【北都保育園との連携】

- ・5年生の総合的な学習の時間の中で、北都保育園との交流活動がある。
- ・まず12月に、本校5年生が北都保育園に行って園児との交流を図った。児童が遊びの計画を立て、園児との遊びを通して仲良くなり、楽しそうに活動する姿が見られた。その後2月に、保育園の園児に本校に来てもらい、5年児童が学校案内と交流活動を行う予定である。
- ・本校の総合的な学習の時間の中に位置付く取組で、これまで継続して取り組んできたことである。
- ・次年度、北都保育園の園児が本校に入学する。



【教えてもらった踊りを一緒に踊っている】



【グループに分かれて遊んでいる】

【成果】

- ・幼稚園との連携は今年度からのスタートであったが、お互いの情報交換や指導に関する協議を通して理解が深まった。
- ・保育園との交流は教育課程にも位置付いている活動で、児童も楽しみにしている活動である。次年度自分たちが6年生になったときの新1年生ということもあり、園児も小学校のお兄ちゃんお姉ちゃんとして親しんでくれている。
- ・毎年継続して行っている活動なので、児童・園児とも楽しみにしている。

【考察】

- ・北都幼稚園とは今年度からのスタートであった。今年度は先生同士の交流から始めたので今後、子ども同士の関わりも見据えた連携を模索していく。
- ・北都保育園とは、これまでも連携してきたが、児童がしっかりねらいをもって活動していけるように、今後も取組を進めていく。

【保育園との連携】

本校では、校区内や近隣にある保育園との交流を2年生の生活科カリキュラムに位置付けて、年2回実施している。

1回目は「まちたんけん」の訪問先として店などのほかに「白石うさこ保育園」と「柏葉保育園」へ、学級ごとに訪問している。訪問する前には「園児たちの喜ぶ出し物をしよう」をめあてに、出し物ごとのグループで内容や役割分担を決め、練習に取り組んでいった。当日は、お互いに緊張しながらもだんだん打ち解けていき、出し物ごとに大きな拍手をもらい満足そうであった。

2回目は「2年生まつり」として、1年生と訪問した保育園児を招待し、「ゲーム屋さん」を開く活動である。「小さな子が楽しめるゲーム屋さん」を目指して、出店ごとに、用具やルール、説明の仕方などを工夫していった。当日は、お互いに2度目の交流となるので、和気あいあいと楽しそうに活動していた。



【訪問先の保育園児にクイズを出題している様子】

【成果】

- ・2年生なりに年長者としての自覚が芽生えてくるので、年下の子へ丁寧に対応しようと努めていく態度が見られた。
- ・「保育園児のために〇〇しよう」という視点で活動を考えたり工夫したりするようになった。
- ・「喜んでくれた」ことを実感することで、準備から当日までの活動を満足感をもって振り返ることができた。



【むかしあそびのゲーム屋の様子】

【考察】

- ・2つの保育園との連携は、子どもたちの交流が中心であるが、卒園児の成長の様子や入学予定の園児についてお互いに確かめることができる機会でもあるので、今後も継続していきたい。

札幌市立南白石小学校

〒003-0022

白石区南郷通2丁目南6-35

【本郷幼稚園の教師との連携】

7月の本郷幼稚園の教師の学校訪問に際し、単に授業を参観するだけではなく、子どもに直接関わるような内容を設定した。幼稚園の先生にエプロンシアターをしていただいたり、図工のはさみの使い方などを個別に指導していただいたり、着衣水泳のお手伝いをさせていただくことで、より小学校の授業のあり方について知っていただくことができたのではないかと考える。



【エプロンシアターの様子】



【1年生図工の指導】

【成果】

平成26年1月に幼保の幼児の引継を行い就学時の連携を図ることができた。それに続いて、今回の学校訪問をしていただくことで、小学校と幼稚園の教職員が交流を図ることができた。子どもたちの発達や学びの連続性を考えると、こうした交流はとても大切であると思う。今後も、幼保小連携のために、アイデアを出し合い、活動できるようにしていきたいと考える。

【南郷保育園の園児との連携】

2年生生活科「たんけんに行こう」の学習で、南郷保育園を訪問し、ホールで合唱を披露したり、園児と一緒に追いかけてっこや砂遊びなどをしたりしました。



【ホールで歌を歌う場面】



【一緒においかけっこをする場面】

【成果】

小さな赤ちゃんや子どもたちとのふれあいを通して、南白石という地域のよさを見つけていた。こうした取組から、幼保小の連携の在り方を探って行きたい。

札幌市立東川下小学校

〒003-0864

白石区川下 4 条 3 丁目

【東川下ポップ保育園との連携】

「東川下遊びランド」での交流

3年生の総合的な学習の時間の学習「東川下遊びランド」の学習では、魚釣りゲームや塗り絵、しっぽ取りゲームなどの遊びを3年生が計画し、保育園の年長クラスの園児を招いて活動する。

学習発表会の参観

本校で学習発表会児童公開日に年中クラスと年長クラスの園児が劇や音楽の発表を参観する。今年度は、1年生劇「おたまじゃくしの101ちゃん」、2年生劇「ともだちや」、5年生音楽「ひびき合いコンサート」の発表を参観した。

保育参観

本校教員が保育園を訪ねて保育の実際を参観する。年長クラスを中心に見学し、園児の様子を参観する。

【連携に至る経緯】

本校に入学する卒園児が多い。園児が本校児童との交流や行事の参観を通して、小学校の生活の実際を捉えることを目的に実施している。また、入学前の幼児の発達段階をとらえ、スムーズな学びの接続を目的に本校職員が保育参観している。

【連携先との関係】 卒園児が本校に入学する。

【北都幼稚園との連携】

「東川下遊びランド」の交流

3年生の総合的な学習の時間の学習「東川下遊びランド」の学習では、幼稚園を訪問し、自分たちが計画した遊びを、年長クラスの園児を対象に実施する。

【連携に至る経緯】

子どもたちが園児と触れ合うことを通して、思いやりの気持ちを育むことを目的に実施している。

【連携先との関係】 卒園児が本校に入学する。

【成果】

- ・園児との交流を通して、園児に対する思いやりの気持ちや親近感が増すことができた。
- ・小学校入学前の園児の発達段階の把握ができるなど、教職員の入学前の子ども理解が深まった。

【考察】

- ・幼稚園・保育園との交流を通して、子どもも教職員も学びが多い。取組の成果や課題を幼稚園・保育園と共有し、次年度の取組に活かしていくシステムを構築していきたい。



【東川下遊びランド】



【学習発表会の参観】



【保育参観】



【東川下遊びランド】